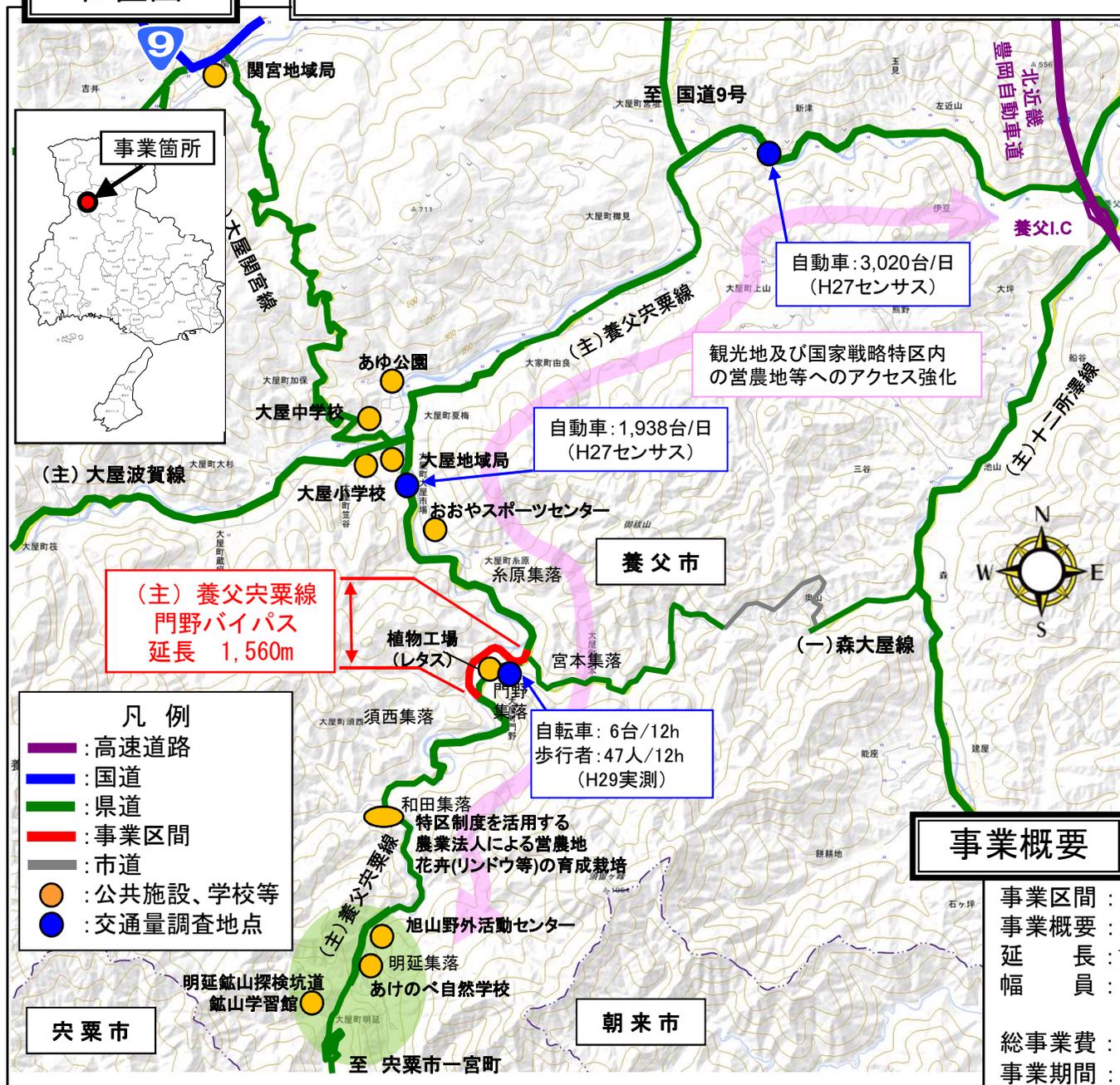
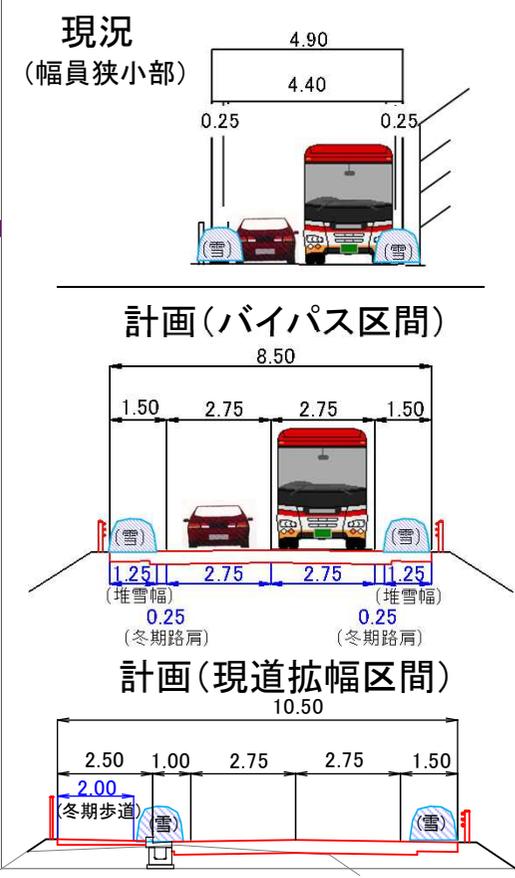


道路事業 主要地方道 養父宍粟線〔門野バイパス〕

位置図

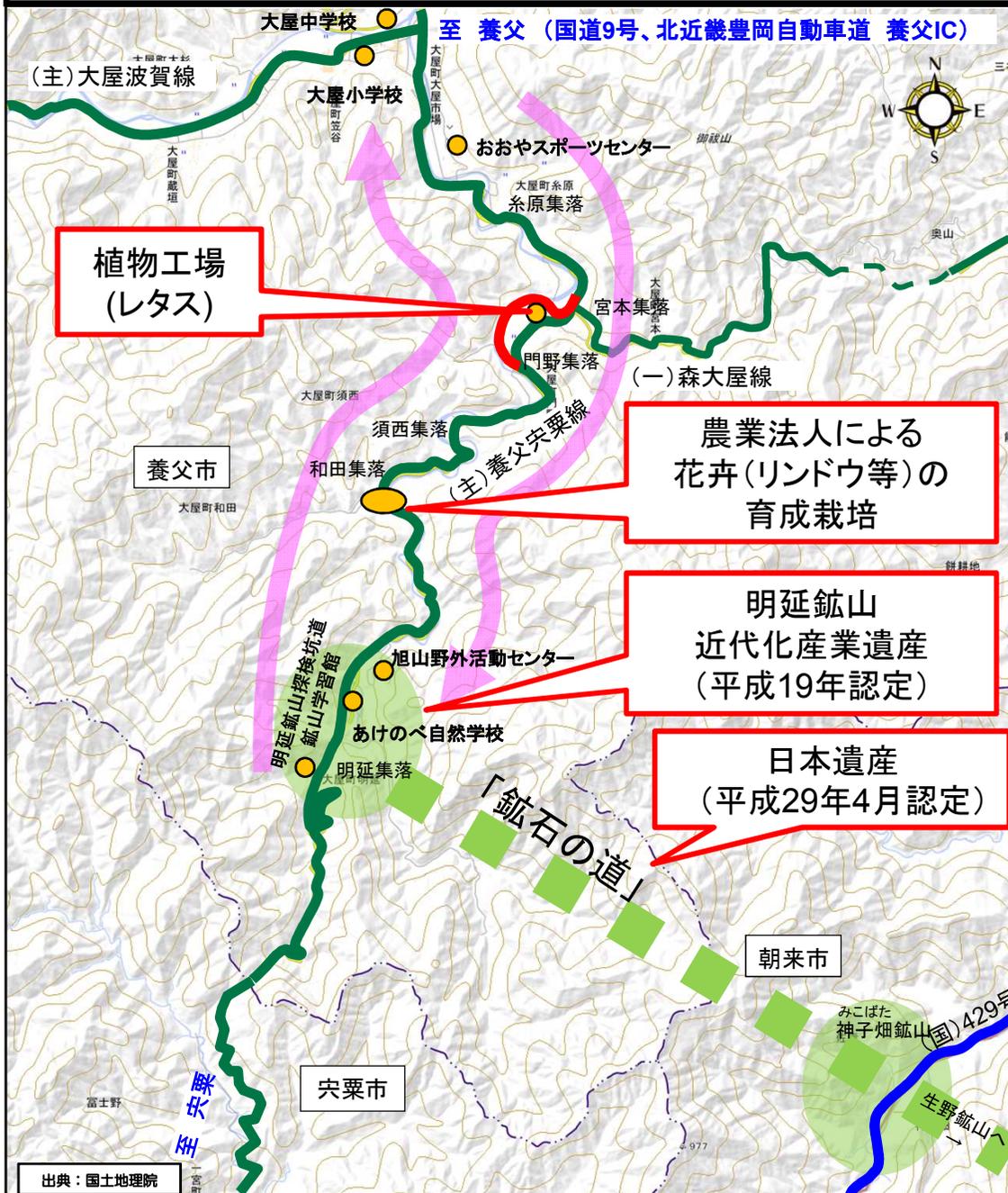


横断図



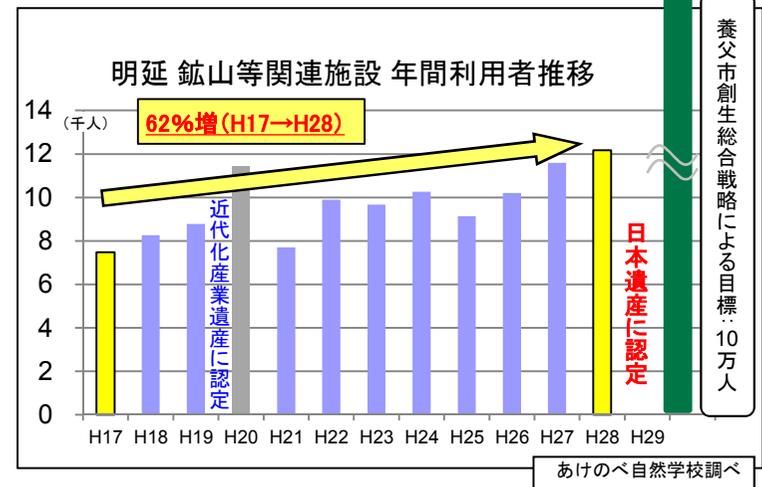
出典: 国土地理院

観光地及び国家戦略特区内の営農地等へのアクセス強化



- 凡例
- : 国道
 - : 県道
 - : 事業区間
 - : 公共施設、学校等

沿線に特区制度を活用する農業法人の営農地やレタス工場があり、安全な流通経路の確保が必要



近代化産業遺産である明延 鉱山関連施設には年間を通じて多くの利用者がある

平成29年4月に「鉱石の道」が日本遺産に認定されたため、さらに観光客の増加が見込まれる

1. スケジュール

当初計画

工種	年度				
	H30	H31	H32	H33	H34
調査・設計	■				
用地補償		■	■		
道路改良			■	■	■

2. 事業効果について

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
道路	① 走行時間短縮便益 ○ 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無しの走行時間費用－整備有りの走行時間費用 走行時間費用： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{走行時間}) \times \text{時間価値原単位} \times 365\text{日}$
	② 走行経費減少便益 ○ 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無しの走行経費－整備有りの走行経費 走行経費： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離}) \times \text{走行経費原単位} \times 365\text{日}$
	③ 交通事故減少便益 ○ 交通事故が減少することによる便益	整備無しの事故損失額－整備有りの事故損失額 事故損失額： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離} \times \text{交差点以外の事故損失原単位} + \text{交通量} \times \text{主要交差点数} \times \text{交差点部事故損失原単位})$

② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B/C
		便益額 (百万円)			総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
道路	道路改築事業	① 走行時間短縮便益	485	計画交通： 1,600台/日 (H42)	450	397	53	1.1
	主要地方道 養父宍粟線	② 走行経費減少便益	0					
	門野バイパス	③ 交通事故減少便益	0					
	計	485						

(2) 費用対効果に含まれない主な効果

- ① 近代化産業遺産、日本遺産である明延鉦山関連施設へのアクセス強化による観光支援
- ② 中山間地域と主要幹線道路とのアクセス強化による農業・産業支援

道路街路事業の効果

対象事業：道路事業（主）養父穴栗線

（１）費用対効果

効果項目（費用対効果の便益内容）	
走行時間短縮	目的地までの時間短縮
走行経費減少	走行速度の向上や走行距離の短縮による便益
交通事故減少	交通事故の減少による人的損害額、物的損害額及び渋滞による損失額等

（２）費用対効果に含まれない効果

○印は当該事業効果の主な項目

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等		
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 （緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備）	○	緊急輸送道路（補完ルート）の整備による防災機能の強化
		救助・救援活動の支援 （災害時の通行不能や孤立集落の解消）	○	緊急輸送道路（補完ルート）の整備による防災機能の強化
		減災対策への取組み （二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保）	—	
	平時	救急医療体制の支援	—	
		交通安全対策	○	通過交通のバイパスへの転換による現道利用者の安全性の向上
②地域の活性化	地域間交流の促進	—		
	中心市街地の活性化	—		
	地域産業の活性化	○	「中山間農業改革特区」関連の営農地等へのアクセス性の向上による農業振興の支援	
	観光支援	○	近代化産業遺産・日本遺産である明延鉱山関連施設へのアクセス性の向上による観光支援	
	地域プロジェクト等支援	—		
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	—		
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	○	通過交通のバイパスへの転換による騒音、排気ガスなどの沿道影響の軽減	